



横浜賀市博物館の おいたちと使命

蟹江康光・正井義郎

1953年7月 日本の開国にゆかりの深いペリー上陸の地 久里浜にペリー記念館として開館し 翌年6部門(地学 植物 動物 考古 歴史 民俗)を加えて総合博物館(館長 羽根田弥太)として17年を経過しました。今回 横浜賀市の中心部 深田台の中央公園内 横浜賀市文化会館の隣接地に近代的な新館を建設して 自然史部門と 収蔵資料の大部分を移転しました。久里浜は分室として ペリー関係 考古資料 民俗資料の展示場として従来どうり開館しています。本館は主として三浦半島を中心とした人文 自然史の博物館であります。とくに地方の特色のある博物館とし 次の6つを目標として運営しております。

- ① 三浦半島の人文 自然史をわかりやすく展示した博物館
- ② 資料を収集し 分類し 永久に保管する場所としての博物館
- ③ 研究機関としての博物館

● 博物館への順路

京浜急行・横浜中央駅より徒歩5分
国鉄横浜線・横浜駅または衣笠駅よりバスにて文化会館前下車徒歩3分

● 観覧案内

入館無料 (特別の場合を除く)
開館時間 午前 9:00～午後 5:20
休館日 毎週木曜日
12月29日～1月3日
資料整理日 (毎月末日)
但し月末が木曜日及び国民の祝日の場合は、前日に繰りあげます。
団体観覧などの場合は、前もって、ご連絡下されは好都合です。久里浜分室及び、両自然教育園の観覧案内は、本館と同じです。

● 所在地

横浜賀市深田台95 〒238
電話 0468 (24) 3688 (代)

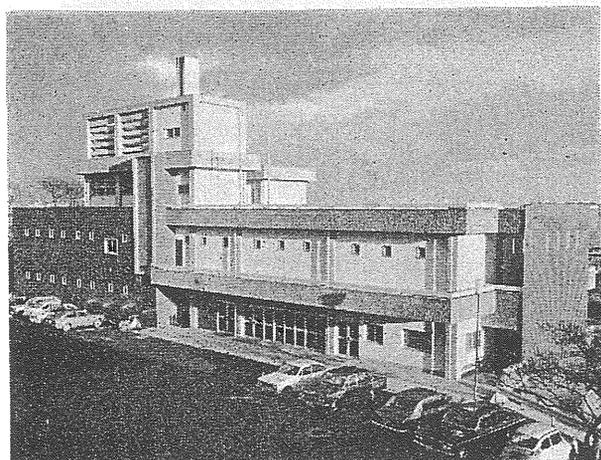
案内
パンフレット
から

- ④ 社会教育の場 とくに市民へのサービス機関としての博物館
- ⑤ 地域社会の学校が利用できる博物館
- ⑥ 人文文化財 自然文化財の保護の立場に立った博物館

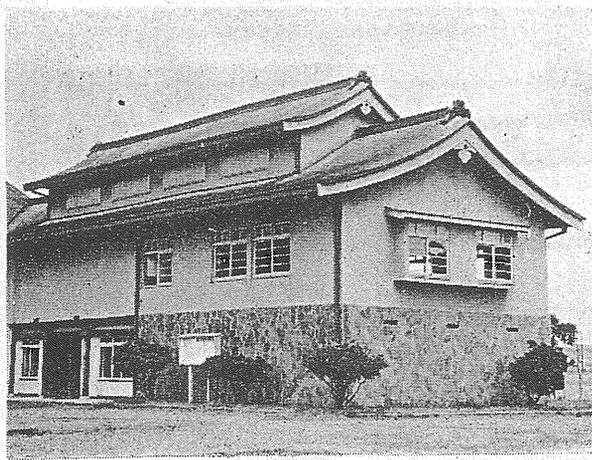
地学資料収集の方針

前記の使命に基づき 地学部門では 次の6つを目標として資料の収集 整理が行なわれています。

- ① 三浦半島から産出する地質資料特に化石資料を重点に集める。最近都市化の波に伴う開発工事が多く行なわれていますが その際に大規模な露頭が多くあらわれ 貴重な資料が掘り出されています。ともするとこれらは失なわれがちであり かつ時期をいつすると永久に失なわれてしまうことから 特に収集には力を入れています。
- ② 地学上 三浦半島と密接な関係をもつ房総半島 伊豆半島の地質標本を比較研究のため集める。
- ③ 三方を海に囲まれた 三浦半島であるので海洋地質資料の整備を行なう。



横浜賀市博物館本館



同久里浜分室

- ④ おもに地質学分野をあつかい天文学分野は取り扱わない。気象分野は統計資料の収集のみを行なう。
- ⑤ これらの資料と比較研究するために 当地域に限定されないで 関連資料を豊富に集める。
- ⑥ これらの資料を分類 整理を行なうために必要な文献資料を豊富に集める。

展 示

展示は 博物館のもっとも一般的な教育活動であります。このために三浦半島の自然史をわかりやすく展示する必要があります。従来の展示はややもすると学者のひとりよがりの感を受けることがありますので全体として調和のとれた きれいな展示を作るよう努力しました。説明文は2系統に分けてあります。

- ① 一般用：大きな字で100字以内で説明してあります。
- ② 学習用：展示物ケースの中に細かい字で論文の紹介 原稿の出所などを示してあります。

分類展示は科学教室にあります。無窓建築ですので全館完全冷暖房設備を備えています。

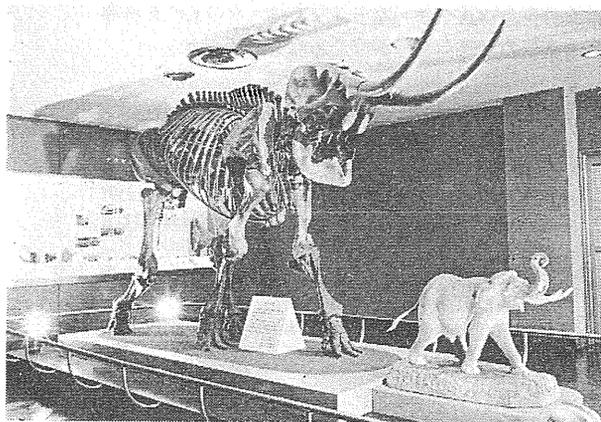
展示室は2階と1階があります。2階には 「ナウ

マン象」 「相模湾の海底模型」 「横須賀の現況」 「三浦半島のおいたち」とジオラマがあります。このジオラマは5mの空間にそびえ立つ「夜の森」 「タイドプールの朝 昼 夜」の2展示があります。2階と1階をつなぐ階段には「岩石壁面」があります。

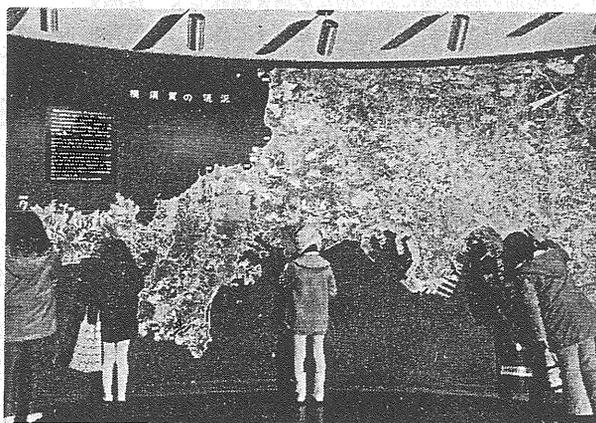
1階はテーマ展示室です。化石を中心とした「地球の歴史」 植樹をテーマにとった「植物」 色彩美しい「海の生物」 いまは数少なくなった「三浦半島の哺乳類」「両生類」「は虫類」「昆虫類」 周辺海域に豊富な色彩と種類のある「魚類」 豊富な「鳥類」 世界でもここだけしかない「発光生物」の展示があります。

ナウマン象

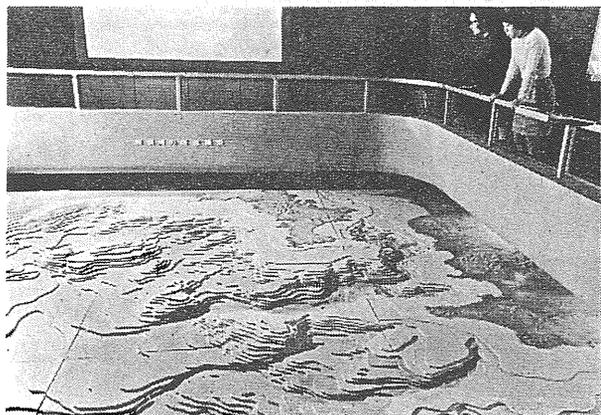
今では日本の洪積世の時代に象がいたことはよく知られています。1868年 現在の横須賀軍港 当時横須賀製鉄所と呼ばれていた その中の白仙山^{はくせんざん}という山付近を掘さくしてドックが作られました。大量の土砂は工事中であった品川付近の線路施設のため海中を埋立するのに使われましたが その時骨化石が出土し この骨を大学南校（今の東京大学）の要請により送りました。



正面入口にあるナウマン象骨格模型



三浦半島の航空写真



相模湾の海底模型



ジオラマ 三浦半島の森林

当時教師であった「エドモンド・ナウマン」はドイツの古生物学雑誌に「史前時代の日本の象」という論文を発表しました。これが日本で報告された最初の象化石です。博物館の入口ホールに展示された象の骨格は千葉県印旛村で発掘されたものを復元した模型で原標本は国立科学博物館にあります。ナウマン象は三浦半島では1868年に白仙山でみつかったもののほかに1929年長井町大木根で歯の一部 1963、1970年の2期にわたって大木根で一頭分のおよそ半分がきわめて保存のよい状態で掘り出されました。

相模湾の海底模型

三浦半島を境に東京湾には東京 Canyon (海谷) 相模湾には陸上の各河川に続く城ヶ島 三崎 三浦 葉山 江の島 Canyon が注ぎこれらはかつての海深さ 1000m 以上の相模 Trough (海盆) に注いでいます。深い Canyon の間には取り残されたように相模 三浦 三崎 沖の山 Bank (堆) が海面近くまでそそり立っています。この地形を15000分の1に模型化しました。高さは材料の関係で1.4倍に誇張して

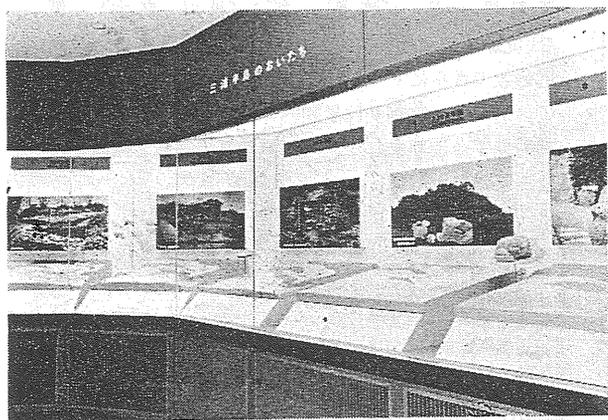
あります。東は鴨川 南は利島 西は天城山 北は丹沢まで作ってあります。吸いこまれるような青い海の前に立った時はあなたは深い感銘を受けることせう。

横須賀の現況

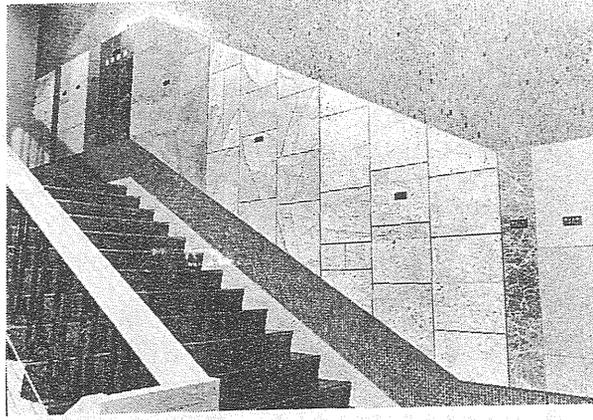
4 m25cm × 2 m30cmの平面で囲まれた中に三浦半島を中心とした航空写真がおよそ1万分の1の縮尺で示されています。山川 人家 道路 鉄道施設等はもちろんのこと地図上では読みとれない地質構造をはっきりと読みとることができます。三浦半島の西北西 東南東方面の地質構造も明瞭にわかります。航空写真は無限の説明をもつ展示ともいえます。

三浦半島のおいたち

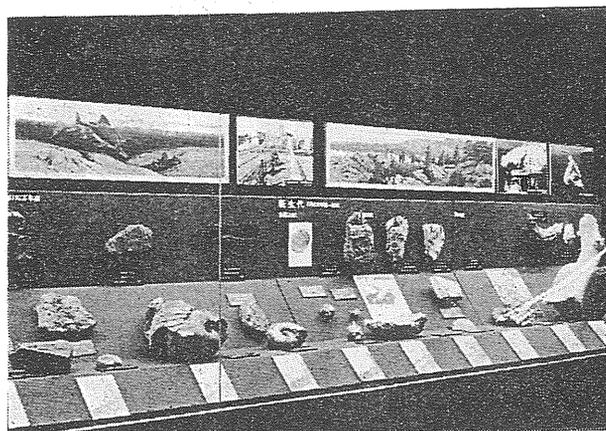
三浦半島の地史を7時期(1:現在 2:縄文時代 3:古東京川の時代 4:相模層群堆積初期 5:上総層群堆積初期 6:三浦層群堆積中期 7:葉山層群堆積初期)に分けて地模型と写真と実物で説明してあります。地模型は1/25000の縮尺で最近明らかにされてきた南関東の海洋地質学の知識を導入して海底部を



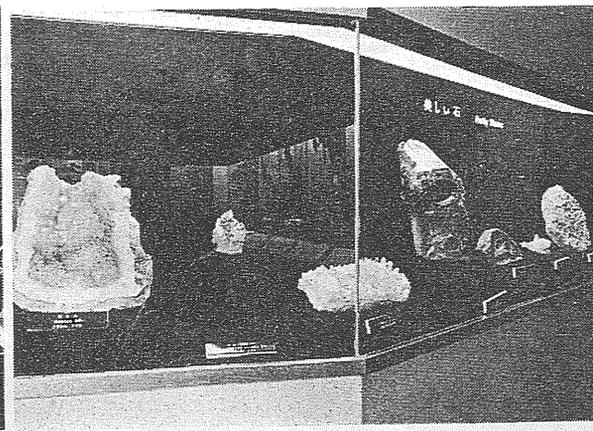
地層の展示(三浦半島のおいたち)



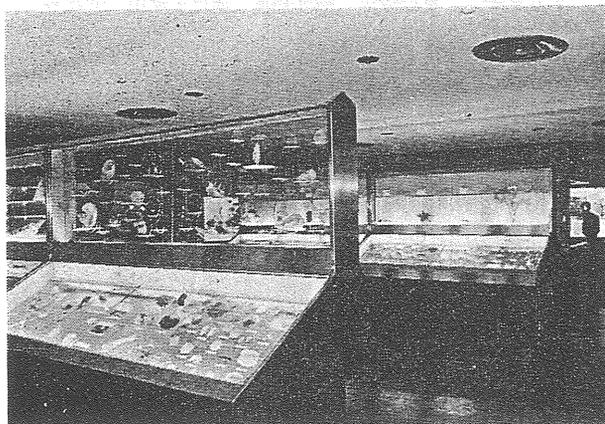
各種の石材で構成された壁面



生命の歴史 地質年代別による化石の展示



美しい石 鉱物の展示



貝類の展示

も含めて 層群単位で色分けした古地形の模型です。また 展示壁面に実物の地層を切り取ってはめこんでみました。

未固結堆積物を固定して展示物の中に組みこみましたが この作業は未固結堆積物の室内研究に広い応用が考えられます。

岩石壁面

名前でいうほど珍しいものではありません。2階の一般展示室と1階のテーマ展示室を結ぶ階段の壁面を利用して装飾石材をはり それに商品名 学名 産地を記したエッチングプレートをはりつけたものです。生活と岩石を結びつける展示と建築の内装をかねています。

地球の歴史

「生命のおいたち」と「大地は動く」「美しい石」の3テーマを含みます。「生命のおいたち」は化石を古い時代から新しい時代に その時代を代表するもの美しいものをならべてみました。東亜の古地理図を時

代と平行して指してあります。「大地は動く」はカラーコルトン(裏から光をあてる透明陽画)によって地殻変動を表現してみました。「美しい石」は名前のとおりで 学問的なテーマでなくて 美しい鉱物や岩石が並べてあります。

研究設備

第1・2. 研究室：本館学芸員の机上作業の室です。また資料の登録設備とコピー機能をもっています。冷暖房は温冷水を利用するファンコイルですので蓄熱のある限り ずい時調節することが出来ます。

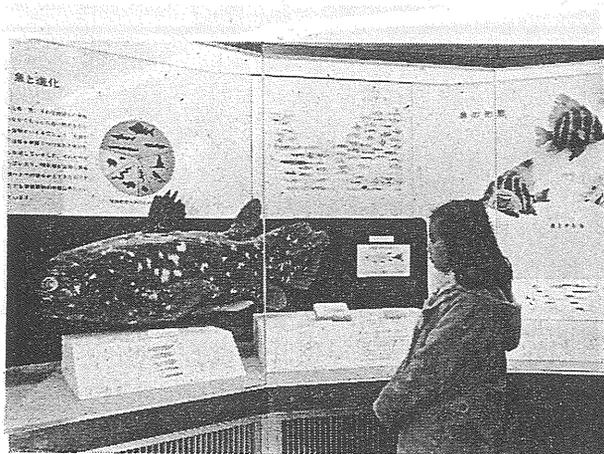
第3 研究室：おもに外来研究者のための室です。資料調査に滞在される方のために 独立系統の空調パッケージを備えています。

工作室：部門について特に分けてありません。3階の研究室近くと 地下に荒作業用「石工・木工などの」工作室をもっています。

資料室：第1(液浸) 第2(地学 考古) 第3(乾燥植物・動物) 第4(紙) 資料をもっています。近時点でさらにもう1階資料室のみ増築工事を予定しています。室割り学問的体系によらず 資料の物理的性質によりました。新鮮空気の送風と除湿を行なっています。

地学関係のおもな収蔵標本

三浦半島の化石(田越川層 浦郷層 大津層 宮田層)
宮田層産ナウマン象化石と関連資料
北海道白亜系の軟体動物化石
北海道築別地方の第三系化石
東海地方の第三系化石
岐阜県赤坂金生山の二疊紀化石
東海地方のペグマタイト鉱物



さかなの展示



カラーコルトンによるさかなの展示

関 連 標 本

細谷コレクション(貝)

中上川コレクション(貝)

三浦半島の標式土器(吉井 茅山貝塚など)とその出土品

図 書 室

一般には公開していませんが 研究者には公開しております。貸出しはしませんがコピーはできます。博物館 大学 臨海実験所との交換図書が およそ一万冊あり また日高孝次博士寄贈の日高海洋文庫(単行本雑誌 リプリント など)大山柏博士の大山考古文庫があります。

出 版 物

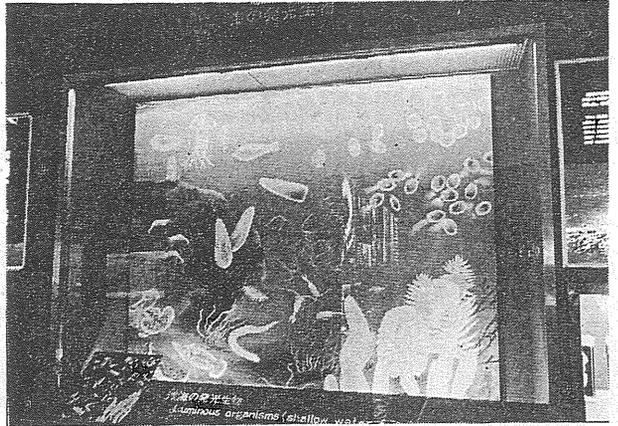
年1回 横須賀市博物館研究報告(自然科学)17号まで
横須賀市博物館研究報告(人文科学) 15号まで
横須賀市博物館研究報告(雑報) 16号まで
不定期 教育シリーズ 12号まで

教 育 活 動

博物館は教育の場であり 単なる珍奇物の陳列場ではありません。社会教育に進んで参加するために随時講演会 野外観察会を行なっています。また日本の博物館ではあまり行なわれていなかった学校教育の分野への活用も行なっております。講堂 科学教室には教育活動を円滑に進めるために 設備の一部として自動映写装置を備えています。もちろん 学会や地質巡検のまとめなどを行なうことも可能です。

分 室 と 分 園

当館では本館以外に久里浜分室と 山と海二つの自然教育園をもち 管理人が常駐して管理しております。



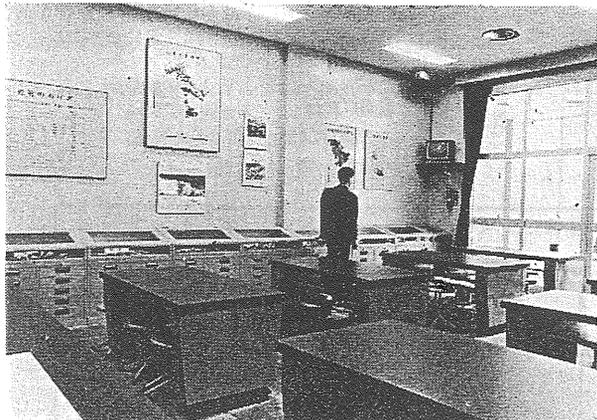
世界でもここだけにしかない発光生物

〔追 記〕

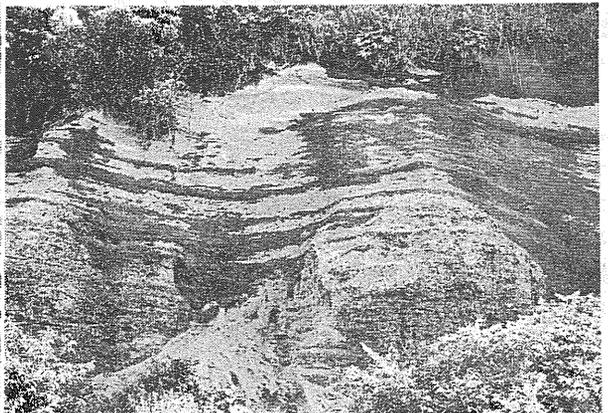
三浦半島 房総半島には第三紀から第四紀にかけての地層が整然と分布しています。そのために 古くから多くの研究者が訪れています。また 交通の便利なこと 手頃な広さなどから絶好の見学地となっており 四季を問わず巡検旅行の人たちが訪れています。三浦半島には逗子の^{あぶら}鑿層不整合 御用邸岬の逆転層 長者ヶ崎の小断層 佐島の褶曲構造 諸磯の隆起海岸 油壺の駿潮儀観測所・地震観測所 城ヶ島・昆沙門・劔崎の海蝕地形や第三紀層にみられる堆積構造 活断層である南下浦断層・武山断層・葉山層群をつらぬく衣笠・池上の蛇紋岩 東京湾に沿って整然と並んでいる第三紀層 大規模な土木工事で次々出現する大露頭など どれを組み合わせても楽しい見学の材料となります。横須賀市博物館はこれらの地域のほぼ中央部にあります。

地質調査所で発行された日本油田・ガス田図「三浦半島」(1:25000)は便利な参考資料でしょう。

(筆者らは 横須賀博物館学芸員・企画室)



科 学 教 室



津久井の宮田層にみられる化石床